

秦野市の公共施設 更新問題への取り組み

—公共施設白書から公共施設再配置計画へ—

平成24年1月28日(土)

名古屋大学ファシリティマネジメント

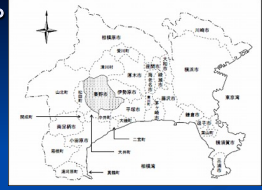
短期教育コース第3回配付資料



作成: 神奈川県秦野市政策部
公共施設再配置推進課
課長補佐 志村 高史

秦野市を紹介します。

- ◆ 県央西部に位置し、県下唯一の盆地です。
- ◆ 面積は、103.61km²。人口は、170,085人(H24.1.1現在)
- ◆ 市の全域が都市計画区域ですが、北部は丹沢大山国定公園に指定され、その面積は、地域の4割弱を占めます。
- ◆ 東京から60km、横浜から37km、小田急線で新宿から6、70分
- ◆ 財政規模は、一般会計455億円、水道事業と5つの特別会計を合わせて833億円(H23当初予算)
- ◆ 職員数は消防、水道、14幼稚園などを合わせて1,084人(H23)
- ◆ あまり有名なものではありませんが、一番全国で知られているのは、ラーメン「なんつっ亭」?



第一部 公共施設更新問題 が起こります

プロローグ

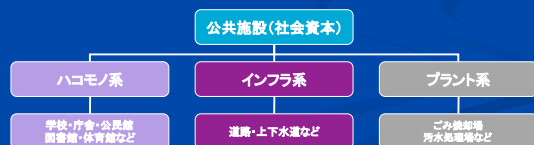
- 皆さんの町の市民ホールは、来年も使えると思いますか。たぶん大丈夫です。
- 5年後、10年後はどうでしょう。恐らく大丈夫ではないでしょうか・・・
- では、20年後、30年後は？ また、建替えはできますか？ 今日ここにお集まりの皆さんの多くは、誰もが漠然と大丈夫と思っているはずです。市民ホールのような大勢の市民が利用している施設がなくなるはずはないと・・・
- 誰かそれを保障した人はいましたか？ 誰もいないはずです。市民の皆さんも、私たち公務員も、公共施設はあって当たり前、今までも何とかやってきたのだから、これからも何とかなんと漠然と思いついてるからです。
- 今までは当然であっても、これからは当然ではなくなります。秦野市が特殊なわけではありません。

世界で例を見ない経済成長を成し遂げ、そして、世界に例を見ないスピードで高齢化が進行するこの国で、深刻な問題が起ころうとしています・・・

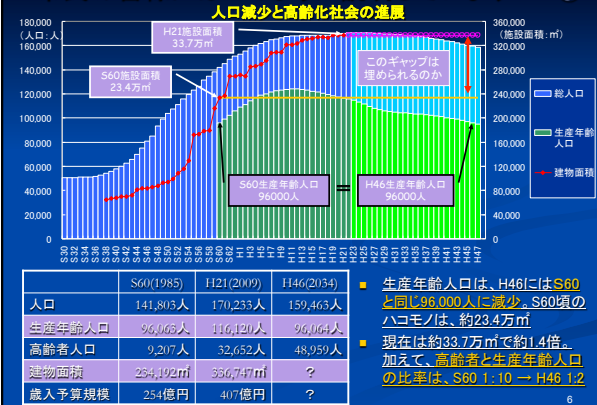
「公共施設の更新問題」とは・・・

- 公共施設(社会資本)の多くは、都市化の進展とともに集中的に整備されてきましたが、近い将来、これらの「公共施設」を一斉に更新する時期がやってきます。
- そして、これに合わせて高齢化と人口減少が進んで財政状況が悪化し、現状のままでは、必要性の高い公共施設まで良好な状態で保てなくなる恐れがあります。

これが「公共施設の更新問題」です。



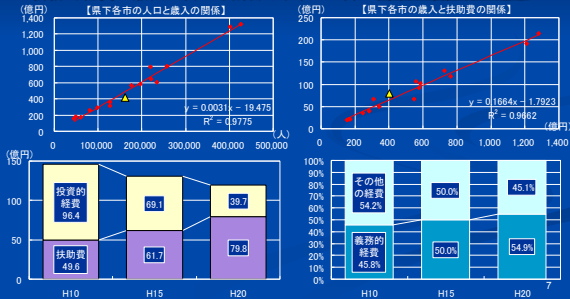
市民の皆様にはこのように説明しています・・・①



市民の皆様にはこのように説明しています・・・②

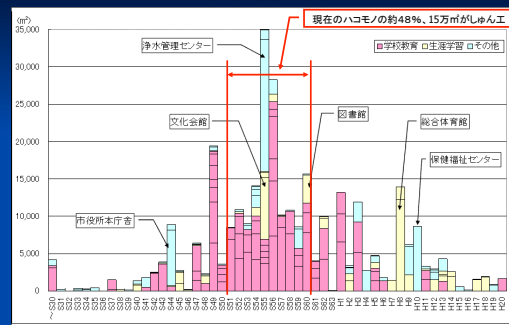
すでに厳しい台所事情

- 市民一人当たりの歳入は、県下平均の86%で17市中15番目、市税収入は、平均の90%で14番目
- 扶助費は10年間で60%増加し、公共施設の更新や改修に使う投資的経費は60%減少
- 義務的経費が歳出に占める割合は、年々上昇→財政の硬直化が進む



市民の皆様にはこのように説明しています・・・③

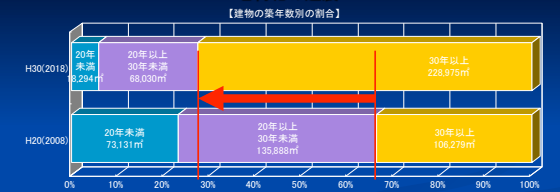
建築時期の集中



- 昭和50年代に現在の建物の5割弱がしゅん工
- 昭和55年度には、1年間で現在の建物の10%強がしゅん工

市民の皆様にはこのように説明しています・・・④

老朽化の進展

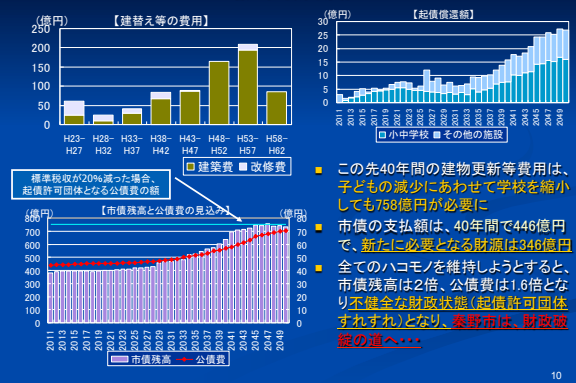


- ハコモノの77%が築20年以上、34%が30年以上(H21.4.1現在)
- H30までにさらに40%以上の建物が築30年以上なり、維持補修と更新費用は増大(東京オリンピックや大阪万博を契機に都市化した自治体は、多くの公共施設が既にこの時期に突入しているはずですが、景気の低迷と財政悪化により...)

「急激に増えた人と建物は、同時に歳をとり、同時に多くの予算が必要になっていきます。」

市民の皆様にはこのように説明しています・・・⑤

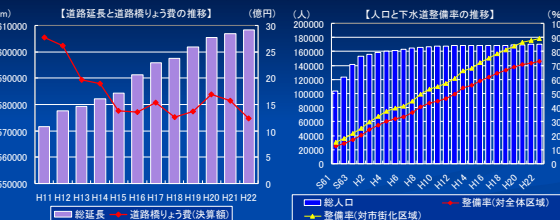
増大する財政負担



- この先40年間の建物更新等費用は、子どもの減少にあわせて学校を縮小しても758億円が必要に
- 市債の支払額は、40年間で446億円で、新たに必要となる財源は346億円
- 全てのハコモノを維持しようとする、市債残高は2倍、公債費は1.6倍となり不健全な財政状態(起債許可団体すれすれ)となり、豪邸市は、財政破綻の道へ...

市民の皆様にはこのように説明しています・・・⑥

もう一つの根深い問題



- ハコモノは抑制傾向にあっても、増え続ける道路と下水道。ハコモノは統廃合できても道路・橋・下水道は...
- 以前ある市民は、「震災の後の公共施設の復旧順序を思い出すと、何を良好な状態で維持しなければいけないのかがよくわかる。まず道路、上下水道、次にハコモノだったら学校では。」
- ハコモノ改革で道路横りようの更新費用を出すという試算を行ったが、義務教育施設の必要量を確保できなくなるとの結果に。問題の根深さは、ハコモノより深刻かもしれない。

市民の皆様にはこのように説明しています・・・⑥

- 以上のことから考えると、
 - ・ 現在の公共施設の総量を維持し続けることは不可能です。
 - ・ 自分たちの便利さや豊かさだけを求めて結論を先送りすることは、次世代に大きな負担を押し付けることになります。

「公共施設の更新問題は、自治体財政が抱える時限バクダンです！」



そこで秦野市は・・・

- 秦野市は、「公共施設の更新問題」に対応するため、平成20年4月、専任組織である「公共施設再配置計画担当」を企画総務部内に設置し、「公共施設の再配置」に着手することとしました。
- 「公共施設の再配置」とは、公共施設のうち特に「ハコモノのあり方について抜本的な見直しを行うことにより、その適正な配置と効率的な管理運営を実現し、将来にわたり真に必要な公共施設サービスを持続可能なものにする」と定義しました。

13

特別付録①

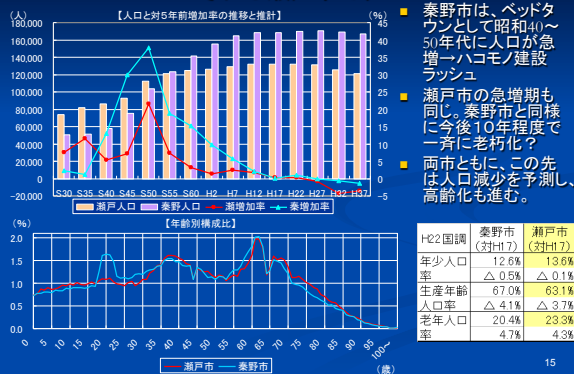
第二部へ移るその前に・・・
皆さんの身近な場所でも更新問題が起こります。
危機感を持っていただくために、
勝手に秦野市と比べさせていただきました。

この項目は、各自治体のホームページで公表されているデータ及び平成24年1月1日に東洋大学PIE研究センターが公表したデータを基に作成しています。また、筆者の私見であり、秦野市の見解を示すものではありませんので、筆者の承諾なく内容を転用することはご遠慮ください。

14

秦野市と似ている自治体を見つけました①

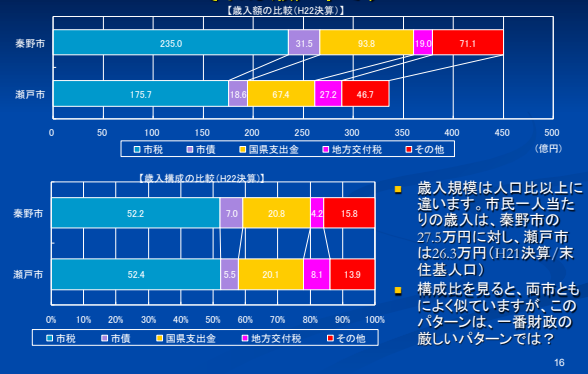
—それは瀬戸市です—



15

秦野市と似ている自治体を見つけました②

—それは瀬戸市です—



16

秦野市と似ている自治体を見つけました③

—それは瀬戸市です—

	瀬戸市	秦野市
人口 (H22.3.31住基人口)	129,928人	161,986人
可住地面積	47.73km ²	49.26km ²
可住地人口密度	2,722人/km ²	3,288人/km ²
小学校	20	13
中学校	8	9
幼稚園	0	14
保育園	22	5
公民館	17	11
市営住宅	285戸	257戸
ハコモノ (H21決算:行財)	318,080㎡	336,747㎡
一人当 (H21未住基人口)	2.45㎡/人	2.08㎡/人
経常収支比率 (H21決算)	88.2%	94.2%

■ 瀬戸市の市民一人当たりの建物面積は、秦野市の1.18倍。にもかかわらず、市民一人当たりの収入は0.96倍・・・

■ ハコモノ面積は、人口との相関に加え、行政区域の面積とも相関が現れず(特に学校)

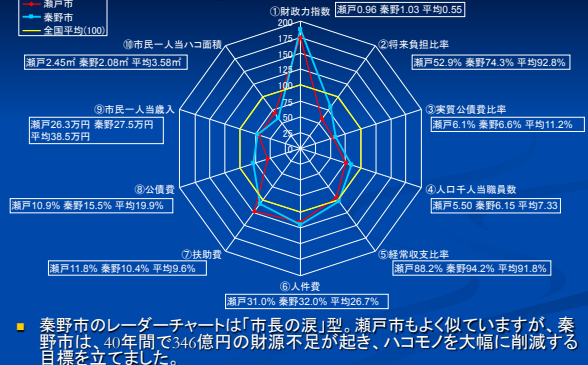
■ 瀬戸市は、可住地の面積は秦野市とほぼ同じでも、可住地人口密度は、若干低い。人口も少ないので、多くなることは仕方ありませんが・・・

■ 経常収支比率も、90%に近づき、財政の硬直化が進んでいます。早めの手当てをお勧めします・・・

17

秦野市と似ている自治体を見つけました④

—それは瀬戸市です—



18

秦野市と似ている自治体を見つけました⑤

—それは瀬戸市です—

- 平成の大合併をしていない人口13万人の自治体の近似値(※)は2.43㎡/人。瀬戸市との差は約0.02㎡/人
- この差は、更新と改修費用10.4億円(年0.2億円)の差となります。
- また、秦野市の財源不足(346億円/17万人≒20.4万円/人)から試算すると、
 $20.4万円/人 \times \frac{2.43㎡}{2.08㎡} \times 13.0万人 = 27.5万円/人 = 40年間で 327億円$ が不足?
- 秦野市が全国的に見ても最低レベルであることがお解りいただけだと思いますが、その秦野市でも危機が訪れます。瀬戸市も、相当な危機感を持つ必要があります。

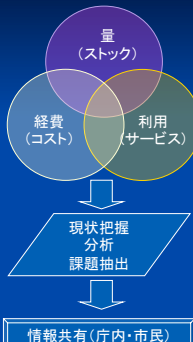
※ 近似値: 全国の940自治体(政令市・特別区除く)の人口とハコモノ面積の相関を表す散布図に表れる累乗近似曲線から得られる値

項目	ランキング (940自治体中)	対人口での 近似値との比較	対人口密度での 近似値との比較	人口が少ないのに ハコモノが少ない自治体	人口密度が低いのに ハコモノが少ない自治体
瀬戸市	156位	😊	😊	86	32
秦野市	74位	😊	😊	37	11

第二部 公共施設更新問題への対応は、 施設白書づくりから

秦野市公共施設白書の作成・・・①

—なぜ白書を創ったのか—

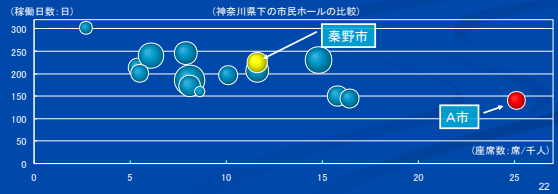


- 公共施設の将来の姿を考えるのに、公共施設の全体像(何がある?どれだけある?いくらかかる?)を誰も知らない。
- 職員も自分の担当する施設のごとくは、いしかわらない(これでは、市民にはなおさらわからない)
- この状態で計画を作っても、単なる抽象的な行政論の市民への押し付けになり、理解は得られない。
- 公共施設の必要性は誰が決めるのか。まず、全体像を捉え、課題とともに市民に公開する必要がある。そして、全庁的な取組みとなるため、庁内の共通認識も形成しておかなければならない。
- そのために必要となるのが公共施設を量(ストック)、経費(コスト)、利用状況(サービス)の三つの視点でとらえ、現状と課題を明らかにする「施設白書」である。

秦野市公共施設白書の作成・・・②

—こんな事例がありました—

- 更新問題は、どの自治体にも起こります。できるだけ早く対策に手を付けなければ、市民にも行政にも大きな痛みを与えます。
- 例えば、神奈川県A市で起こった更新問題にも関連する事例です。この町は、企業城下町で、リーマンショック後の法人税収大幅減に対応するため、市民ホールの休止を発表しました。その後、市民の反発を受けて撤回し、ホールの設備更新先送りや職員削減に加え、人勤以上の職員給与削減や議員報酬の削減で当面存続しましたが、先の統一地方選挙で市長は落選しました・・・
- もし、下図のような情報を、市民が白書などで前もって知っていたとしたら、違う結果になっていたかもしれません。



秦野市公共施設白書の作成・・・③

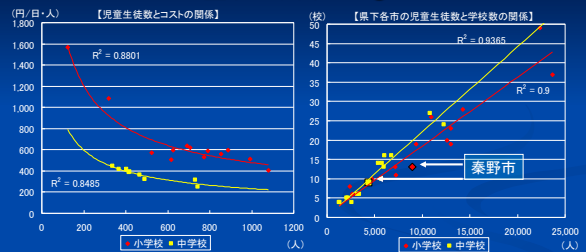
—白書の特徴—



- 道路や上下水道設備を除くすべての公共施設(457施設(うちハコモノ223施設)・土地面積168万㎡・建物面積33万㎡、294棟)の現状をとらえ、課題とともに、所管の枠を超えて横断的に比較
- 「本編」(204頁)と「施設別解説編」(292頁)の2部で構成
- 自前で作成した結果、画一的ではない本市独自の視点での現状分析と課題を抽出
- 人件費までとらえた利用者一人当たりのコスト、予約システムのデータを利用した施設の稼働率、県下各市との比較など、公開の機会が少なかった情報を掲載
- 行政に都合の悪い情報も、利用者に都合の悪い情報も、包み隠さず全てをお見せしています。

秦野市の公共施設の課題(白書より)

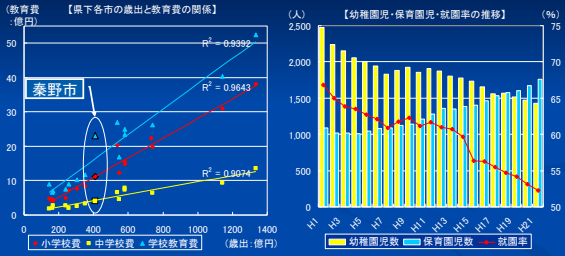
—量(ストック)から①—



- 小中学校では、児童生徒数が600人を超えると管理運営費用にスケールメリットが現れる(?)
- この条件を満たすのは、小は9/13、中は2/9、計11/22
- しかし、県内での比較では、決して学校数が多いとはいえない。

秦野市の公共施設の課題(白書より)

—量(ストック)から②—



- 小学校費と中学校費は、財政規模に応じた支出。しかし、公立幼稚園14園を加えた学校教育費全体では、財政規模を大きく超える支出。
- にもかかわらず、減り続ける公立幼稚園児

25

秦野市の公共施設の課題(白書より)

—経費(コスト)から①—

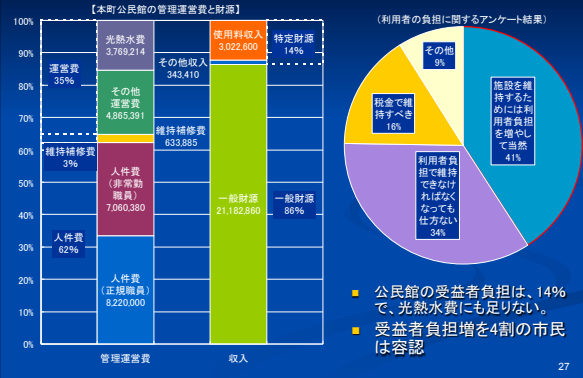
順位	コストが高い施設		コストが低い施設	
	施設名	金額(円/人・日)	施設名	金額(円/人・日)
1	自然観察の森・湧水庵	2,195	鶴巻温泉弘法の里湯	△275
2	市民活動サポートセンター	2,112	浜沢駅北口駐車場	△210
3	森丹沢野外活動センター	1,832	片町駐車場	△60
4	里山ふれあいセンター	1,401	秦野駅北口自転車駐車場	△25
5	はだのこども館	1,229	交通公園	58
6	文化会館	1,057	テクノスポーツ広場	59
7	くずはの家	1,051	寺山スポーツ広場	85
8	浜沢児童館	1,013	老人いこいの家ほりかわ荘	103
9	上公民館	924	老人いこいの家すずはり荘	109
10	谷戸児童館	830	老人いこいの家かわじ荘	110
11	図書館	819	田原ふるさと公園	110

- 管理運営費が使用料で賄えるのは4施設だけ(H19)
- それができるのは、どれも公設公営である必要性は薄い施設

26

秦野市の公共施設の課題(白書より)

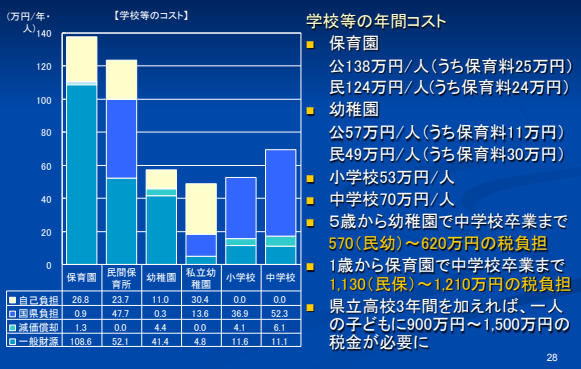
—経費(コスト)から②—



27

秦野市の公共施設の課題(白書より)

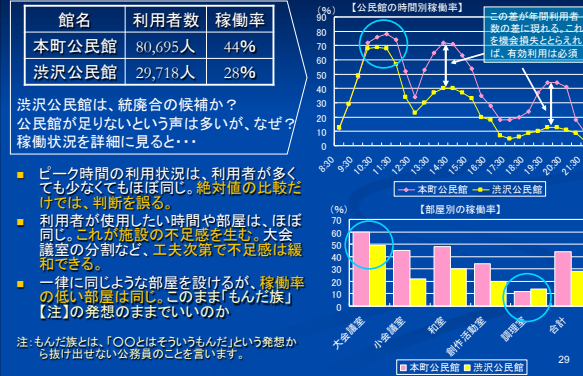
—経費(コスト)から③—



28

秦野市の公共施設の課題(白書より)

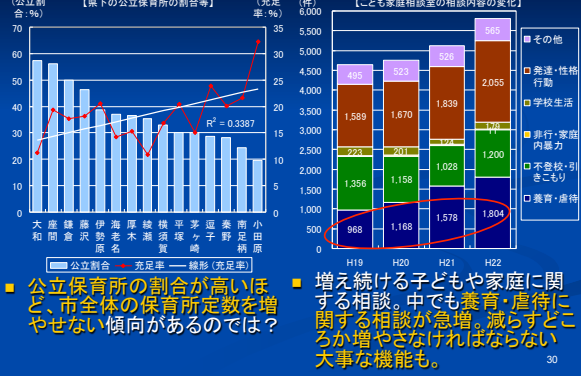
—利用状況(サービス)から①—



29

秦野市の公共施設の課題(白書より)

—利用状況(サービス)から②—



30

公共施設白書のまとめ

— 白書とは何であったか・・・ —

職員が漠然と気がついてたこと、
多くの市民が知らなかったこと、
これらを白日の下にさらけ出してしまう公共施設白書は、
自治体にとって「パンドラの箱」

既得権益

私利私欲


反対運動

政治的(?)
圧力

事なかれ
主義

先送り

前例踏襲

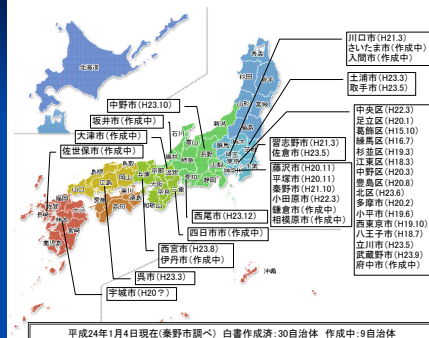


嫌なものばかり出てきますが、最後には「希望」が出てくるはず。
その「希望」をかかなえることができるのは・・・第三部へ続く

31

そんなパンドラの箱を開けてしまった自治体は・・・

参考: 施設白書作成自治体



平成24年1月4日現在(秦野市調べ) 白書作成済: 30自治体 作成中: 9自治体
(インターネットで情報を確認できるもののみ。作成中にはHPで公表していないものも含む。)

32

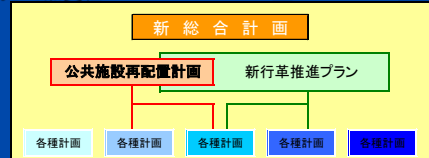
第三部

更新問題を解決するため 方針と計画を創ろう

33

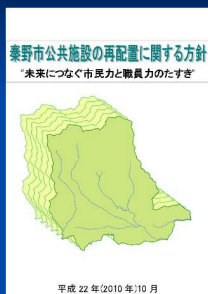
白書公表に続き、 再配置計画の策定に取り組みました。

- 平成23年度にスタートする新総合計画、新行革推進プランとともに検討作業を進めてきましたが、**施設白書を基礎資料として大いに活用**
- 再配置に取り組むことを**新総合計画の基本構想に位置付けるとともに、新行革推進プランと相互にリンクさせ、三位一体の計画**として策定しました。
- 白書を作成しても、方針や計画策定に移行していない自治体も多いが、秦野市にとって**白書は、過程であって目標ではない。**
- 白書で危機を伝えたのに、**対策に手を打たないのでは、市民に対して無責任**



34

まず、再配置の方針を作りました



秦野市公共施設の再配置に関する方針
'未来につなぐ市民力と職員力のたすき'
平成 22 年(2010 年)10 月
秦野市

- 検討委員会からの提言「**ハコに頼らない新しい公共サービスを!**」(H22.6)をほぼ踏襲して作成
- 副題は、「**未来につなぐ市民力と職員力のたすき**」
- 「**駅伝のたすき**」(未来に引き継ぐ)と「**たすきがけ**」(市民と行政が力を合わせる)の二つの意味を込めました。
- 方針に沿わないと、**未来につなぐのは、石の詰まったリュック**になります。
- 財政や人口の推計に基づき、**将来にわたり維持可能な施設量を試算し、公表したのは、全国初?**

35

方針では、更新問題へこのように対応することにしました

— 原則は、極めてシンプルです—

2051年以降
建替え施設
63,000㎡

総額
1920億円
+
346億円
2266億円

さらに126億円不足の恐れ

総額
1661億円
+
258億円
1919億円

入
1920億円

2050年までに建替時期を迎える施設
231,200㎡

40年間の管理運営費用
48億円×40年間=1920億円

40年間の建設費等必要額(仮借債返還等)
346億円

不足

点線の太枠内の金額を同じにする

40年間の管理運営費用
1920億円-294億円=1661億円

259億円

更新費用へ

40年間の建設費等必要額(仮借債返還等)
346億円-88億円=258億円

88億円

不変

2051年以降
建替え施設
63,000㎡

2050年までに
更新する施設
158,800㎡

削減
72,400㎡

36

再配置に関する4つの方針

方針1 基本方針

- ① 原則として、**新規の公共施設(ハコモノ)は建設しない**。建設する場合は、更新予定施設の更新を同面積(コスト)だけ取りやめる。
- ② 現在ある公共施設(ハコモノ)の更新は、できる限り機能を維持する方策を講じながら、**優先順位を付けたうえで大幅に圧縮する**。
- ③ 優先度の低い公共施設(ハコモノ)は、すべて統廃合の対象とし、跡地は賃貸、売却によって、**優先する施設整備のために充てる**。
- ④ 公共施設(ハコモノ)は、**一元的なマネジメントを行う**。

37

再配置に関する4つの方針

方針2 施設更新の優先度

- 施設機能更新の優先順位は、右表のとおりとしました。
- 「**最優先**」は、**自治体運営上最も重要な機能**だけとしました。(これは、各自治体の事情によって考え方は異なってくる。例:病院、ごみ焼却場なども優先順位が高くなるのでは?)
- 優先するといっても、**ハコモノの維持を優先するものではありません。機能の維持を優先する**という意味です。

優先度	施設の機能
最優先	義務教育 子育て支援 行政事務スペース
優先	財源の裏づけを得たうえで、アンケート結果などの客観的評価に基づき決定
その他	上記以外

38

再配置に関する方針を定めました

方針3 数値目標

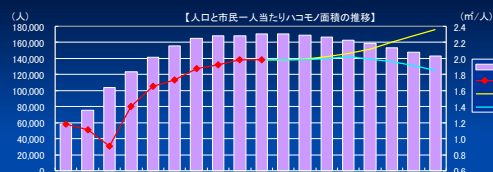
- 40年かけて72,400㎡、更新の対象となる施設面積の約31%を減らし、346億円の財源不足を解消
- 最初の10年では、わずか0.6%の削減。これだけ余裕をもてるのは、**取組みが早いからこそです**。
- それでも、小中学校以外で残せるのは39,700㎡。庁舎、文化会館、図書館、公民館、温水プールで35,700㎡、幼稚園、保育園を加えればオーバー。これが「**公共施設更新問題**」の現実です。

	2011-20	2021-30	2031-40	2041-50	合計
学 校	面積 △900㎡	1,400㎡	15,200㎡	26,500㎡	42,200㎡
	割合 △0.5%	0.9%	9.4%	16.5%	26.2%
その他	面積 2,200㎡	5,100㎡	13,300㎡	9,600㎡	30,200㎡
	割合 3.2%	7.3%	19.0%	13.7%	45.2%
合 計	面積 1,300㎡	6,500㎡	28,500㎡	36,100㎡	72,400㎡
	割合 0.6%	2.8%	12.3%	15.6%	31.3%

41年目以降更新施設を加えると、ハコモノは現在の4分の3に縮小

39

数値目標の意味するもの



- ① 急激な都市化への対応の遅れ
 - ② 義務教育の機会均等重視
 - ③ 義務教育から生涯学習、保健・福祉の充実へ
 - ④ 成熟社会へ
 - ⑤ 景気の後退と社会不安の増大
 - ⑥ 縮む社会への突入
 - ⑦ 本格的な人口減少社会への対応
- 人口減少社会を迎えるにもかかわらず、現状を維持しようとするれば、**市民一人当たりのハコモノ面積は、2.4㎡にまで拡大(現在の1.2倍の負担)**
 - 目標達成により、平成7年ごろと同じ1.8㎡程度(現在の9割程度)まで縮小

40

再配置に関する4つの方針

方針4 再配置の視点

- 5つの視点で再配置を進めます。

視 点	キーワード
「 備えあればうれいなし 」 視点1 将来を見据えた施設配置を進めます	施設と機能の分離
「 三人寄れば文殊の知恵 」 視点2 市民の力、地域の力による再配置を進めます	積極的な施設情報の発信
「 三方一両得 」 視点3 多機能化等によるサービス向上と戦略的経営を進めます	複合化による共用面積削減
「 無い袖は振れぬ 」 視点4 効率的・効果的な管理運営を進めます	公民連携と適切なマネジメント
「 転ばぬ先の杖 」 視点5 計画的な施設整備を進めます	スケルトン方式による建替えなど

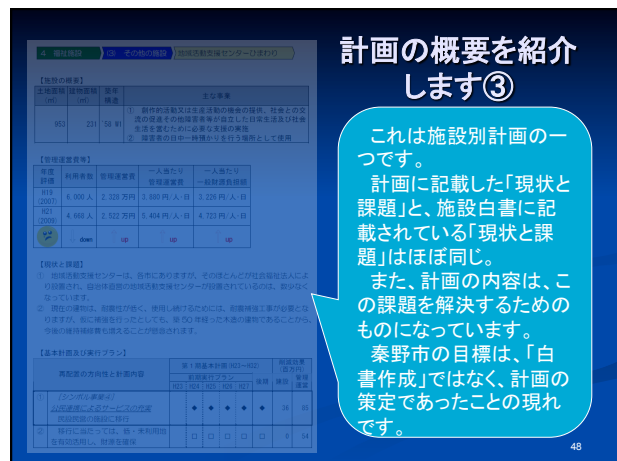
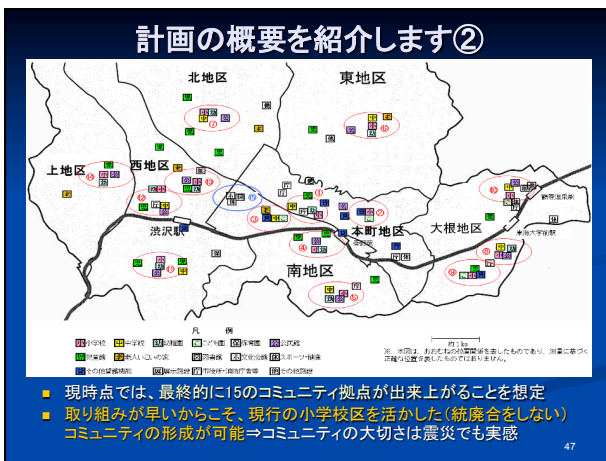
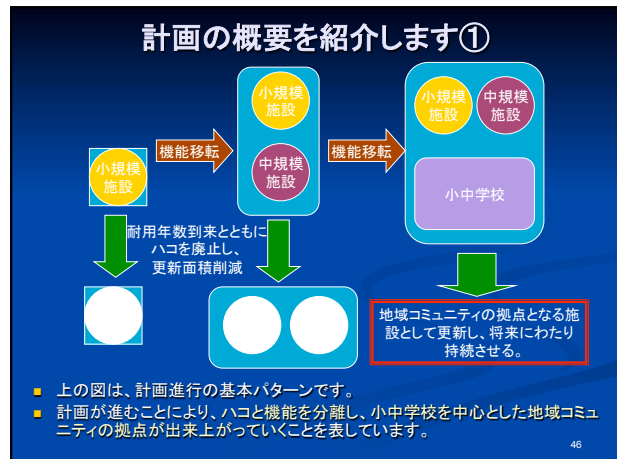
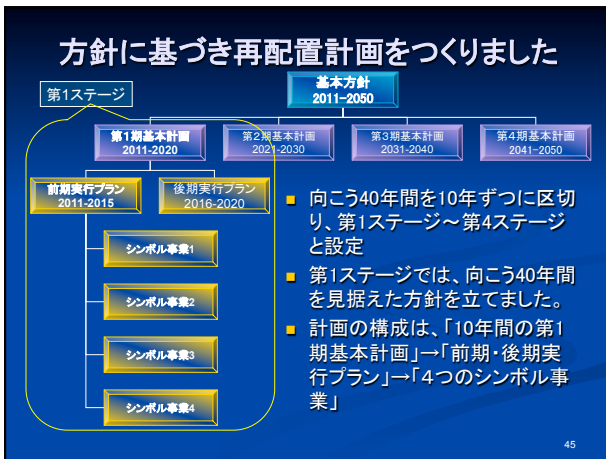
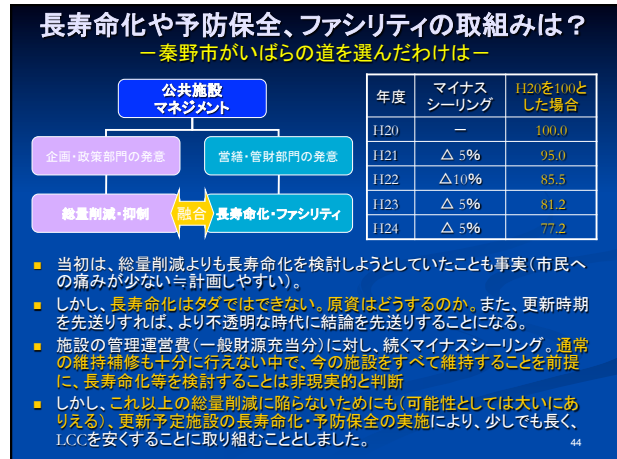
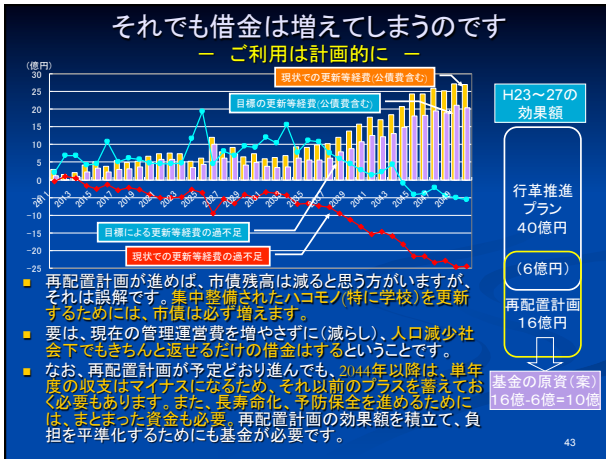
41

方針どおりに再配置を進めると・・・

区 分	金 額
① 現状での施設更新等費用不足見込額	△346億円
② 数値目標の達成による更新費用削減見込額	88億円
③ 数値目標の達成による管理運営費用削減見込額	259億円
④ 数値目標達成による過不足【②+③】	1億円
⑤ 生産年齢人口の減少による管理運営費用財源減少見込額	△126億円
⑥ 内容の見直しによる管理運営費用削減見込額	245億円
⑦ 40年間で生み出す財政上の余力【④+⑤+⑥】 (41年目以降も持続可能とするための財源)	120億円

- 数値目標達成により施設更新に必要な経費の不足を解消②・③・④
- しかし、生産年齢人口の減少による税収減の見込みは126億円⑤
- 管理運営内容の見直しにより、さらに245億円の管理運営費を削減⑥
- 生まれる財政上の余力は40年間で120億円⑦
- しかし、これは年平均約3億円、現在の財政規模の1%未満。2051年以降に更新時期を迎える施設や道路・橋・下水道の更新も考えると・・・

42



計画を推進しています

- 平成23年4月から「政策部公共施設再配置推進課」に衣更し、2名増員(1名欠員)。建築職を加えています。
- 平成23年6月副市長が総括責任者となる公共施設再配置計画推進会議設置
- 推進会議に4つのプロジェクトチーム(PT:リーダー・政策部長・構成員・関係部長)と6つのワーキンググループ(WG:リーダー・公共施設再配置推進課長・構成員・関係課等の職員)を設置。延べ50人以上の職員がメンバーとなり、計画を進めています。
- でも・・・



48

特別付録②

全国940自治体(政令市・特別区除く)のデータから見えてくるもの

ここまでやると、公共施設の更新問題への取組みは、あなたの趣味が道楽ですかと聞かれます・・・

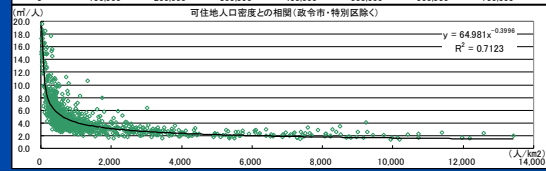
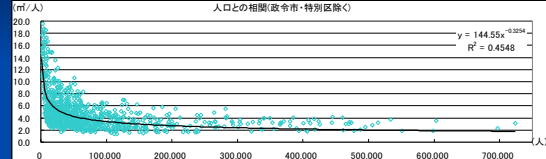
この項目は、平成23年1月11日に東洋大学UIC研究センターが公表したデータを基に作成しています。また、筆者の私見であり、秦野市の見解を示すものではありませんので、筆者の承諾なく内容を転用することはご遠慮ください。

50

住民一人当たりのハコモノ面積と人口及び可住地人口密度との比較・・・①

(政令市・特別区を除く940自治体のデータから)

- ハコモノ面積は、人口や可住地人口密度との相関があります(人口密度との相関のほうが高い)。人口が少なくなるほど、人口密度が低くなるほど、住民一人当たりの面積が大きくなります。



住民一人当たりのハコモノ面積と人口及び可住地人口密度との比較・・・②

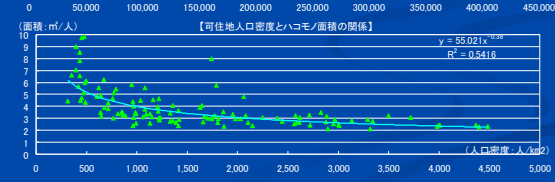
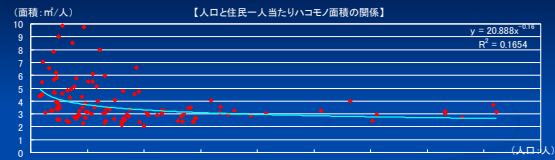
(政令市・特別区を除く940自治体のデータから)

- 平均値は人口84,328人、可住地人口密度1,024人/km²、ハコ3.58m²/人、愛知(47)3.08m²/人、三重(18)3.64m²/人、岐阜(27)4.34m²/人、静岡(24)3.09m²/人
- 政令市、特別区では、近似値(散布図に表れる累乗近似曲線から得られる値)よりも面積が大きくなる傾向があります。
- 下表は、人口と人口密度に応じた近似値です。参考にしてください。ただし、近似値より少ないからといって安心はできません。秦野市は人口17万、人口密度は3300人/km²でハコは2.0m²/人。どちらの比較でも近似値より少なめですが、ハコモノを3割以上削減する必要があります。これが公共施設更新問題の現実です。

人口(人)	近似値 R2=0.4548	可住地人口 密度(人/km2)	近似値 R2=0.7123
10,000	7.22m ² /人	500	5.42m ² /人
50,000	4.28m ² /人	1,000	4.11m ² /人
100,000	3.41m ² /人	2,000	3.12m ² /人
200,000	2.72m ² /人	3,000	2.65m ² /人
300,000	2.39m ² /人	5,000	2.16m ² /人
400,000	2.17m ² /人	10,000	1.64m ² /人

参考までに・・・

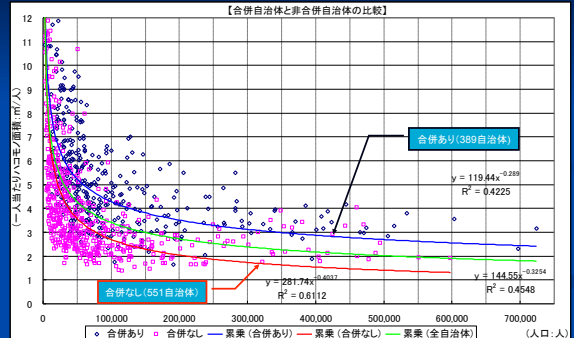
東海地方の自治体の状況(政令市除く)



53

平成の大合併をした自治体としていない自治体の比較(政令市除く)・・・①

(政令市・特別区を除く940自治体のデータから)



54

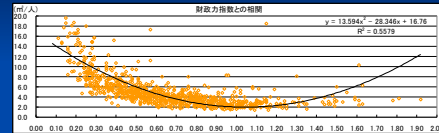
平成の大合併をした自治体と していない自治体の比較(政令市除く)・・・② (政令市・特別区を除く940自治体のデータから)

- 自治体の「**ハコモノフルセット主義**」:自治体がそれぞれホール、公民館、体育館などを一通り備えてきたことを意味します。
- これらの自治体が合併した平成の大合併は、フルセット+フルセット・・・=ダブルセット?、トリプルセット?
- 人口10万では、**合併自治体4.29㎡/人**に対して、**非合併自治体2.70㎡/人**(ともに散布図から求めた近似値)となり、**1.59㎡の差**。これは、**新市建設計画にあるハコモノ削減が進んでいないこと**を表している?
- 中には、合併を機会に減らすどころか、旧市域にある**〇〇センター**を旧町の区域の中にも新たに作るなどという恐ろしい話も聞きましたが、この差は、**更新と改修費用636億円(年11~13億円)の差(更新35万/㎡+改修5万/㎡、50~60年使用と仮定)**。
- このままでは合併効果は消し飛びます。新市建設計画を着実に推進し、ハコモノ削減を!(でも、**秦野市では昭和の大合併から50年以上経っていますが、いまだに「町の方はかり」**なんて声が出ることも・・・)

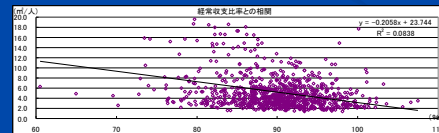
55

そして全ての人が危機感を持つために

- すべての住民、政治家、公務員がハコモノ主義から脱却して危機感を持つとともに、進行するよう意思を揃えるためには、財政健全化刷新比率のように、**「数値的に統一した指標」で「更新問題の深刻度を公表**」する。そして、この問題への**「対応を要する自治体は、補正予算や交付税を削減」**するくらいの制度の構築が必要ではないでしょうか。一つの例として、自治体財政に関する指標のうち、**財政力指数(秦野市1.03)と経常収支比率(秦野市94.2%)**を、今回のハコモノ/面積の調査結果とを比較してみました。



財政力指数の低い自治体、高い自治体でハコモノは多くあります。財政力指数が低い自治体は、人口密度が低いなどの理由により、多くなことは理解できます。しかし、100前後の自治体は、交付税を頼ることができないため、堅実な財政運営を心がけます。低い自治体のハコモノは、本当にすべて必要の高いものでしょうか?



経常収支比率が90%を超えているような自治体は、ハコモノの維持補修すら満足にできていないはずです。このような状態で、今後の更新ができますか?

56

エピローグ

「福祉は大切」、「生涯学習は大切」だからとハコモノを求め、先のことはなんとかなると、〇〇センターや△△館を建ててきました。もちろん「福祉は大切」です。「生涯学習は大切」です。でも、近い将来全国の自治体が、同じ問題に直面するはず。 「今まで以上に」、「今までどおりに」と言う気持ちもわかります。しかし、私たち現在の市民は、将来の市民に対して無責任であっていいはずはありません。子や孫の世代に大きな負担を押し付けられないために、大切な行政サービスを続けていくために、今、私たちがしておくこと、考えておくことはなんでしょうか。公共施設更新問題への取組みは、芽を出したばかりです。その芽に水をあげ、大きな花を咲かせることができるのは、今日お集まりの皆さまです。

秦野市は、公共施設更新問題へ取り組む自治体を応援します!
いつでも気軽に、そして気兼ねなくお問い合わせください。

57

ご静聴ありがとうございました。

秦野市の取組みは、下記雑誌等でも紹介されました。また、全ての情報をHPで公開していますので、機会がありましたらご覧ください。
平成23年 9月 「公共建築ニュース」9月号(発行:(社)公共建築協会)
平成23年 8月 月刊「地方自治職員研修」9月号(発行:辦公職研)
平成23年 7月 季刊誌「R e」No.171(発行:(財)建築保全センター)
平成23年 6月 季刊誌「公共施設マネジメント」創刊号(発行:辦公公共ファイナンス研究所)
平成23年 5月 月刊「自治研」5月号(発行:自治労出版センター)
平成23年 5月 「朽ちるインフラ」(根本祐二著・発行:日本経済新聞社)
<http://navi.city.hadano.kanagawa.jp/koukyousisetu/index.html>

《この資料の内容をはじめ、本市の取組みに関する問い合わせ先》
〒257-8501 神奈川県秦野市桜町一丁目3番2号
秦野市政策部公共施設再配置推進課 課長補佐 志村 高史
Tel:0463-82-5122(直通) Fax:0463-84-5235
koukyousisetu@city.hadano.kanagawa.jp

58